

子どもの視点から持続可能な保育システムのあり方を探る5
—子ども子育て支援制度を保育の質向上につなげていくために—

保育領域の専門性の確立をめざして

北野 幸子（保育政策研究委員会委員 神戸大学）

はじめに

- ・公的資金の保育への投資が拡大することの必要性とそれへと向かうことへの評価
- ・制度の是非を問うステージから、保育の質向上にいかにつなげていくかを議論するステージへ
- ・与えられた制度から、自ら参画しつくる制度へ

話題提供の焦点

- ・新制度における保育者のあり方
- ・これからの保育者養成と現職研修のシステム構築へ向けて

(1) 保育領域の専門性の確立：保育者の専門性に関する部分を中心に

- 1) 人と接する分野の専門職の一般的専門要件からみた、保育専門職の現状
- 2) 確認したい保育専門職の重要性と独自性
 - ・専門知と実践知
 - ・独自性と関係性（有効性）

(2) 子ども子育て新制度とこれからの保育者養成と現職研修システム

- 1) 管轄の一元化
 - ・保育の内容の最低基準の確保を、ナショナル・カリキュラムの一元化を
 - ・監査・評価の一元化、監査・評価を道具に
- 2) 養成システム
 - ・養成の一元化
 - ・幼稚園教諭でかつ保育士であるということ（学校教育と児童福祉を担う＝高度専門職へ）
 - ・実習教育の改善、延長（インターンシップ制度？）
 - ・養成者の高度化
- 3) 学び続ける保育者を支える研修システム
 - ・研修保障
 - ・保育者の個人研修カルテの設置
 - ・園内研修の推進と可視化
 - ・公開保育の充実
 - ・アクション・リサーチのすすめ
- 4) 資格免許の高度化と専門化
 - ・資格・業務内容・待遇はセットで

おわりに

ひとりひとりの保育者・保育学研究者、ひとつひとつの現場から改革を